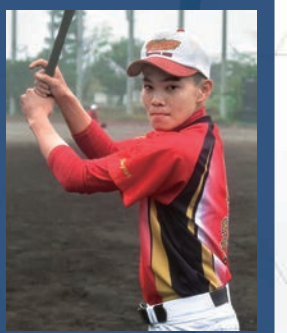


雪谷 「力戦奮闘」



田口力毅
(3年=中堅手)
俊足巧打のセンター。自慢の足とミート力でチームを牽引



Pick up

長谷川大和▶
(3年=遊撃手)
力強い広角打法で打点を重ねるクリーンアップで攻守の要



2003年夏に初甲子園出場 赤い旋風でもう一度“革命”を

2003年夏の東東京大会で優勝し甲子園初出場を果たした雪谷。赤いユニフォームに袖を通す選手たちは、赤い旋風を再び起こすため一球に魂を込める。

■最速143キロのエクспレス

2003年夏に東東京大会を制して初の甲子園出場を決めた雪谷。赤いユニフォームの選手たちの快進撃は、「赤い旋風」と呼ばれた。あれから18年、雪谷がにわかに注目を集めている。プロ野球スカウトが熱視線を送るのは、最速143キロのストレートと多彩な変化球を操るエース右腕・渡邊颯人(3年)だ。高い身体能力を持つ都立のエクспレスは、雪谷復活を懸けてマウンドに立つ。元プロ野球選手の指揮

官・伊達昌司監督は「身体能力が高く、手先が起用。プロを目指せる素材だ」と潜在能力に太鼓判を押す。雪谷は、エース渡邊のほか個性的な選手が揃い、士気が高まる。秋季大会、春季大会はいずれも私学強豪に行く手を阻まれたが、夏のトーナメントのダークホースになる可能性を秘めている。

■元プロ野球指揮官の挑戦

チームを率いるのは、投手としてプロ野球キャリアを持つ伊達監督。法政大から社会人プリンスホテルへ進み、2000年のドラフト会議で阪神から2位指名。リリーフ投手として阪神、日本ハム、巨人でプレーしたキャリアを持つ。現役引退後は教員免許を修得し、都立高教員へ。「都立の選手たちと一緒に野球がしたいと思っ

た」(伊達監督)。江戸川、府中西で顧問コーチを務めたあとの2019年に雪谷へ着任。2021年春から監督になった。元小岩指揮官の西悠介部長らと共にチーム強化に励む。練習は、生徒主導。監督、コーチ陣はサポート役として選手たちに寄り添う。選手たちは、コロナ禍の限られた時間を自分たちでマネジメントし、雪谷スタイルを構築していく。指揮官は「コロナ禍のいまは部活動の変革期。生徒主体の野球で、都立の野球に革命を起こしたい」と選手を見守る。

■赤い旋風で革命を

秋季大会は予選で八王子と対戦し善戦したが、4対10で敗れた。予選を突破して迎えた春季大会では、東亜学園と対戦してリードしたものの終盤に耐えきれず8対13で屈した。選手たちは秋・春の課題に日々のトレーニングで向き合い、夏への成長曲線を描いている。野手の軸は、都立屈指のショートストップ長谷川大和(3年=遊撃手)と、俊足巧打のセンター田口力毅(3年)。勝負強い打撃をみせるふ

たりがチームを牽引。投手陣は、エース右腕・渡邊のほか、身長186センチの2年生右腕・御園拓摩(2年)が控える。エースだけのチームでない点が魅力だ。チームスローガンは「力戦奮闘～野球界に革命を～」。チームをまとめる石原悠聖主将(3年=捕手)は「一戦一戦を力強く勝ち上がって甲子園を目指す」と夏へギアを上げる。赤い軍団の行進は、甲子園へと続いていく。

雪谷高校

【住所】東京都大田区久が原1-14-1
【創立】1913年 【甲子園歴】夏1回
1913年に調布女子実業補習学校として創立。高等家政女学校を経て、1949年に共学に。翌1950年に現校名となる。野球部は共学化と同時に軟式野球部として創部。2003年夏には東東京大会優勝で甲子園初出場。野球部OBに鈴木優(オリックス・巨人)。

主将の チーム分析

石原悠聖 主将
(3年=捕手)

赤い旋風を起こしたい

「今年は、渡邊、御園という力のあるピッチャーを軸に戦っていきます。投打のバランスが取れてきたので、夏へ向けて細部を詰めていきます。一戦一戦、目の前の試合に集中して勝ち上がっていきたい。もう一度、甲子園へ出場して赤い旋風を起こしたいと思います」



雪谷・伊達昌司監督

自分自身の経験を伝えていきたい

「私自身多くの人に支えられて大学、社会人からプロまで野球を続けることができました。その恩返しとして自分自身の経験を生徒たちに伝えていきたいと思っています。都立の野球、部活動に新たな風を吹かせていきたいと考えています」

1975年神奈川県生まれ。法政二→法政大→プリンスホテル。2000年のドラフト会議で阪神2位指名を受けて入団。プロではリリーフとして、阪神、日本ハム、巨人で2006年までプレー。江戸川、府中西を経て2019年に雪谷着任。2021年春から監督。